

アカメガシワ	学 名 <i>Mallotus japonicus</i> 別 名
<赤目櫨>	分 類 トウダイグサ科アカメガシワ属（落葉高木） 分 布 本州、四国、九州、沖縄、朝鮮、中国、台湾 用 途 建築・機具材、薪炭
解 説	山野普通に生え、高さ5～10mになる。樹皮は灰褐色で浅い割れ目が縦に細かく入る。若枝、冬芽、葉、花序の軸には星状毛が密生する。葉は互生し、長さ10～20cmの倒卵状円形で先端はとがり、基部近くに1対の腺点がある。ふちはしばしば浅く3裂し、裏面には黄褐色の腺点がある。葉ののび始めは鮮やかな赤色で美しい。7月頃、枝先に長さ7～20cmの円錐花序をだし、花弁のない小さな花を多数つける。雄花は淡黄色でがくは3～4裂し、多数のおしべがある。雌花のがくは2～3裂し、3個の花柱は紅色でぞりかえる。蒴果は直径8mmで線点とやわらかいとげが多い。熟すと3つに裂け、直径約4mmの紫黒色の種子をだす。昔はこの葉をカシワと同じように食物をのせるのに使い、また、新芽が赤いことから赤目櫨の名がある。葉は民間薬、肥料、染料にも使われる。
	枝・葉
	幹
	花
	実

